

§ 小論文 §

生徒氏名     〇〇 〇〇    

課題名     小論文 第3回 学歴社会について    

《概評》 小論文は、問題を取り上げて、いろんな面から利点、欠点を評価しながら、論理的に議論をつくっていくものが良いと思います。なんとか、よくまとまっています

《総合評価》  A     B     C     D

(添削：コメント) とても、よくまとまっている

要旨は、

学歴社会とは、学校でよい成績をとり、よい大学に進み、その成績によって人生が決まるという考え方である。

学校でよい成績をとれないことは、個人の価値とは関係がないはずだが、学歴社会の考え方は、できない自分に価値・能力がないと感じさせてしまう。学校や教育は、人間の個々に違う特性や能力に気づかせ、その伸ばし方、活かし方をともに考える場になっていかねばならない。

内容がわかると、すっきりした良い論述になっています！

\*\*\*\*\*

あとは、コメントのおまけです。

論題は「学歴社会」です。どういう論述になったのかを振り返ってみたいと思います。

(1) まず「学歴社会とは」、答案の書き手(〇〇さん)は「どういう社会である」と言うのか、は大切ですから、よいスタートです。「学校でよい成績をとり、よい大学に進学し、その成績によって人生が決まるという考え方である。」というのは、標準的な理解の仕方ですから、よいと思います。このような考え方があるとしたら、どういうことが起きるかとか、社会にどのような問題が起きるかとか、いろんなことを考えるのが小論文です。

(2) (〇〇さんは) 長い時間、人は学校に通学しているのだが、「人は自分の学歴や能力に納得し生活しているのではあるか」と言います。人は「自分の学歴(さきほどの言葉からいうと、自分の学校での成績)」に納得しているのだろうか」というのですが、まだ何を主張したいのかはっきりしません。

(3) 次の段落に入ると、「よい成績をとれず、第一志望校に進学ができないことなど、人生の失敗ではないのである」という主張がでてきます。「それは、個人の価値とは全く関係ないはずなのだが、日本の学歴社会は優劣をつけ、個人の価値にまで及ぶが根強くある。」と主張しています。そして、この考え方は、「皆と同じようにできない自分には価値がなく、能力がないと感じさせる。そして、ほかに持っている特性に気づき、それを伸ばす精神力や生き方を奪う」と主張しています。

(4) ここまでの考察は、この考え方(学校の成績を大切にする考え)は、よい成績がとれない場合に、自分は価値がない。能力がないと感じさせるという、危険な結果が生じるという流れになっています。たしかに、そういう状態に相当数の人が陥るのかもしれないと思います。ただ、よい成績がとれる人は、どうなるのでしょうか、この考察では、まだ考察されていないのは、バランスがどうなるのか心配です

(5) 次に、筆者は(この論述で)、何を考えることになのでしょうか?見てみましょう「競争とは、自分の個性を伸ばし、やりたいことに挑戦し、切磋琢磨していく存在である」というのです。

ここで読み手としては、「よい成績をとることができない場合の議論が(3)でされていたが、(5)では、生徒に最高の能力が出せる場合の話になっていることに気づきます。

「その結果が、勝者になっただけである。」というのです。

(得意なものを見つけられると、みんな HAPPY になれるというスジになっていると気づきました)

(6) 最後に、議論はどうしめくられるのでしょうか?

「個人の特性も能力も個々に違う・」、「学校や教育は、その個人の能力に気づかせ、その伸ばし方をともに考える場になっていかねばならないのである」そのような自己追及の仕

方を教えられた子どもたちは、能力を発揮し、生き生きとした人生を歩んでゆくと筆者は考える。」と結びました。終わってみると、よくまとまっていると思いました！  
バランスがとれた論述という点でも、よくできています！

学歴社会について

〇〇 〇〇

学歴社会とは、学校で良い成績をとり、良い大学へ進学し、その成績によって人生が決まるという考え方である。日本では義務教育が九年あり子供たちは平等に学び、その後、殆どが高等学校へ進み、更に大学や専門学校へと多くの人が進むのである。これだけ多くの学びの時間が与えられるのだが、人は自分の学歴や能力に納得し生活しているのだろうか。

確かに、良い成績を収めるのは素晴らしい事ではあるが、良い成績ではない、第一志望校へ進学できない事などは、人生の失敗ではないのである。個人の価値とは全く関係ないはずなのだが、日本の学歴社会は優劣をつけ、それが個人の価値にまで及ぶ概念が、根強くある。この考え方は、皆と同じ様に出来ない自分には価値がなく、能力がないと感じさせ、他に持っている特性に気付き、それを伸ばす精神力や生き方を奪うのである。

競争とは自分の個性を伸ばし、やりたい事に挑戦し切磋琢磨していく事なのである。そして他人は蹴落とすものではなく、同じ志を持ち自分を高めてくれる存在なのである。競争の世界で真の勝者とは、相手に勝つ事に集中するのではなく、自分に意識を向け、自分の持っている最高の能力が出せるように努めることであり、その結果が勝者となっただけである。

この世に同じ人間はいない、よって個人の特性も能力も個々に違うのである。学校や教育は、その個人の特性や能力に気付かせ、その伸ばし方や活かし方を共に考える場になっていかなければ、ならないのである。そのような、自己追求の仕方を教えられた子供たちは、個々の素晴らしい能力を発揮し、生き活きとした、人生を歩んでいくのだと筆者は考えます。